

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年2月27日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	1月の価格情報			2月		2月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額				上旬			
	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	下旬	上旬	中旬				中旬			
葉茎菜類	キャベツ	96.86	99	96.86	117	116	・7,553t (94%)	愛知(67), 千葉(15)	平均価格	「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格	
		(102%)	(106%)	(121%)	(129%)	(130%)	・2,494t (75%)	愛知(57), 大阪(10), 兵庫(8)			
	たまねぎ	83.77	81	83.77	82	86	・7,546t (120%)	北海道(84)	→		
		(97%)	(92%)	(98%)	(103%)	(94%)	・2,872t (118%)	北海道(80), 兵庫(12)	→		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	248	252.99	262	323	・1,624t (89%)	千葉(40), 埼玉(26), 群馬(13), 茨城(11)	→		
		(98%)	(104%)	(104%)	(128%)	(112%)	・138t (80%)	徳島(31), 三重(15), 高知(14), 香川(12)	→		
	はくさい	64.18	79	64.18	80	101	・3,997t (83%)	茨城(67), 群馬(18)	→		
		(123%)	(125%)	(125%)	(157%)	(134%)	・2,028t (74%)	愛知(28), 茨城(22), 兵庫(18), 長崎(11)	→		
	ほうれんそう	338.43	473	338.43	422	419	・938t (118%)	群馬(25), 茨城(25), 埼玉(21)	→		
		(140%)	(142%)	(125%)	(124%)	(140%)	・278t (79%)	徳島(38), 福岡(33), 群馬(11)	→		
	レタス (結球)	233.85	231	233.85	230	206	・2,692t (98%)	静岡(33), 香川(12), 茨城(12), 兵庫(9)	→		
		(99%)	(101%)	(98%)	(90%)	(90%)	・653t (85%)	兵庫(41), 長崎(20), 徳島(18)	→		
果菜類	きゅうり	370.98	370	370.98	321	298	・2,996t (109%)	宮崎(32), 千葉(20), 高知(18)	→		
		(100%)	(100%)	(87%)	(89%)	(80%)	・1,033t (104%)	宮崎(42), 高知(25), 徳島(17)	→		
	トマト (大玉)	349.23	374	349.23	382	364	・3,037t (110%)	熊本(34), 栃木(19), 愛知(12)	→		
		(107%)	(109%)	(109%)	(104%)	(108%)	・1,098t (110%)	熊本(77)	→		
	なす	389.03	423	389.03	424	423	・816t (98%)	高知(64), 福岡(16)	→		
		(109%)	(104%)	(109%)	(109%)	(102%)	・338t (111%)	高知(42), 熊本(26), 福岡(18)	→		
	ピーマン	578.80	584	578.80	605	592	・743t (115%)	宮崎(43), 高知(21), 鹿児島(18)	→		
		(101%)	(97%)	(105%)	(100%)	(99%)	・326t (108%)	宮崎(47), 高知(24), 鹿児島(14)	→		
根菜類	だいこん	79.03	75	79.03	82	87	・4,856t (101%)	神奈川(54), 千葉(32)	→		
		(95%)	(85%)	(104%)	(89%)	(89%)	・2,776t (89%)	長崎(33), 鹿児島(30), 徳島(21), 和歌山(13)	→		
	にんじん	111.16	139	111.16	136	144	・2,767t (88%)	千葉(80)	→		
		(125%)	(114%)	(122%)	(117%)	(115%)	・685t (70%)	鹿児島(70), 愛知(14)	→		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 別別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 單位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	1月の価格情報	2月		2月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し					
		2月				現時点の価格水準	今後の価格水準				
		(参考)指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格								
いも類	さといも	228.85 (98%)	225 (92%)	228.85 (104%)	210 (104%)	238 (104%)	・219t (110%)	千葉(34)、埼玉(33)	千葉産は、貯蔵物からの出荷となっており、9月の台風の影響で小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良く大玉傾向であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	→	→
	ばれいしょ	219.65 (107%)	234 (104%)	219.65 (112%)	228 (104%)	245 (112%)	・68t (139%)	愛媛(61)、宮崎(21)	千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるもの、埼玉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	→	→
	さといも	96.99 (196%)	190 (210%)	96.99 (215%)	204 (209)	209 (209)	・2,489t (68%)	北海道(59)、鹿児島(30)、長崎(10)	北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響などで歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、一部産地では生育の遅れがみられるものの、順調な生育となっており、肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	→	→
	ばれいしょ	96.99 (185%)	179 (199%)	96.99 (220%)	193 (220%)	213 (220%)	・1,099t (76%)	北海道(71)、鹿児島(24)	鹿児島産の出荷が平年並みと見込まれるもの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	→	→

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	1月の価格情報	2月		2月中旬の東京及び大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し				
		2月				現時点の価格水準	今後の価格水準			
		(参考)東京・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5カ年平均価格							
洋菜類	ブロッコリー	385.82 (121%)	465 (108%)	356.04 (101%)	385 (115%)	360 (101%)	・689t (115%)	愛知(39)、香川(21)、埼玉(13)	→	→
		417.58 (117%)	487 (115%)	367.08 (111%)	423 (84%)	406 (111%)	・175t (84%)	徳島(31)、長崎(16)、香川(14)	→	→
根菜類	ごぼう	318.13 (137%)	435 (143%)	316.11 (141%)	451 (141%)	447 (141%)	・213t (77%)	青森(70)、茨城(12)	→	→
		188.58 (157%)	297 (147%)	196.38 (149%)	289 (149%)	293 (149%)	・158t (75%)	茨城(41)、青森(22)	→	→
果菜類	かぶ	152.86 (96%)	147 (107%)	143.42 (107%)	153 (107%)	155 (108%)	・324t (91%)	千葉(88)	→	→
		137.79 (107%)	147 (119%)	140.01 (119%)	167 (119%)	173 (124%)	・41t (58%)	徳島(47)、福岡(32)	→	→

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。

3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 生産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 トピック 一 いちごの需給動向について 一

・いちごの語源
いちごは、日本書紀にも登場し「いちびこ」と記載されている。その発音から、血のよう色の奴（接頭頭十血十彦、愛称のような呼び方）という説やすごく赤い子（基（いち=凄く）十紺十子）という説などがあり、実の赤さに由来するという説が有力である。

・いちごの輸出入と世界生産量
いちごは、生食需要が高くなるのは主に冬季であるが、生食や加工食品など、その用途は多岐にわたる。ケーキなどの加工向けは周年で需要があり、利益率の高い、安定した収入の得られる品目として作付けが推進されている。

しかし、主産県の主な出荷期間は11月から翌5月であり、通年で加工向けの需要を賄うことができないため、米国などから輸入される。

世界のいちご生産量は約770万トンであり、日本の生産量は約16万トン、世界の生産量の約2%となっている。

日本のいちごは国内消費のほか、香港、シンガポール、台湾へ輸出されており、そのうち香港が84%を占める（平成28年、441.4万トン）。香港への輸出が多い理由は、植物検疫の必要がなく、リードタイムが短くて済むこと、福岡県が出張所を香港に設置し、販売促進に努めており、この結果「あまおう」が、ブランドとして定着するほど日本産のいちごが認知されつつあること、が挙げられる。いちごの航空輸出量は、平成16年以降、一貫して増加し続けている。

・いちご戦国時代
生食用の市場シェアは、関東圏では栃木県の「とちおとめ」、関西圏では福岡県の「あまおう」が主流で、この2品種で約65%を占め、これに佐賀県の「さがのほか」、静岡県の「紅ほっぺ」をくぐめると75%超を占める。

産地としては、特徴のある品種を持つことにより、差別化を促進でき、一層の有利販売につながるとして新品種の開発に意欲的であり、国、地方自治体及び民間において開発登録が行われている。最近では、話題になった白いちごの開発が有名である。

・いちごがインバウンド消費に果たす役割

観光農園などの体験型観光農業が有力な観光コンテンツとしてインバウンド消費の面においても注目されつつある。日本のフルーツ等が、美味であることを知る訪日観光客も少なくない。産地自ら収穫して食べられる果実狩り等の需要がある、今後ますます高まる予想する民間シンクタンクもある。

・端境期における国産出荷への期待
野菜は、周年で需要があるため、その需要に応えるべく、果菜類を中心に、露地、促成、抑制などの作型が全国各産地で普及しており、周年出荷が行われている。しかし、いちごの出荷には長い端境期があり、生産量が需要を大きく下回る時期に、海外から輸入されている。

端境期においても国産いちごを使いたいという実需者が多いこと、端境期は全国的な出荷集中期より高値で取引されることが多いことから、国内でも端境期を狙った出荷を行っている産地があるが、その出荷量は少ない。

このようなかで、栃木県における「なつおとめ」のような四季成り品種の普及と生産量増加の取り組みにより、端境期を埋める品種などの育成による周年供給の達成と、国産いちごの消費拡大につながることが期待される。

図1 生鮮いちごの国別輸入量の推移

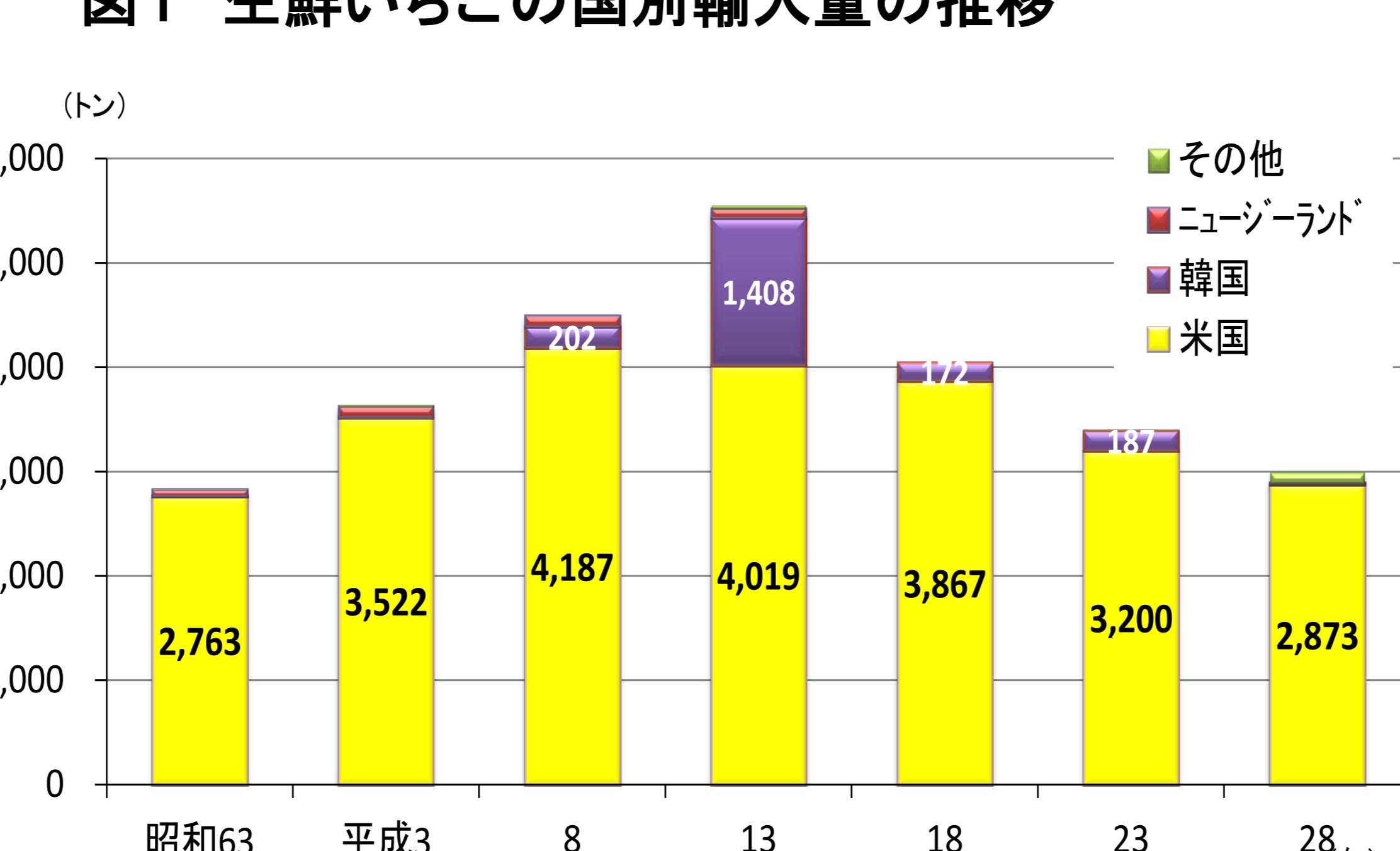


図2 生鮮いちごの国別輸出量

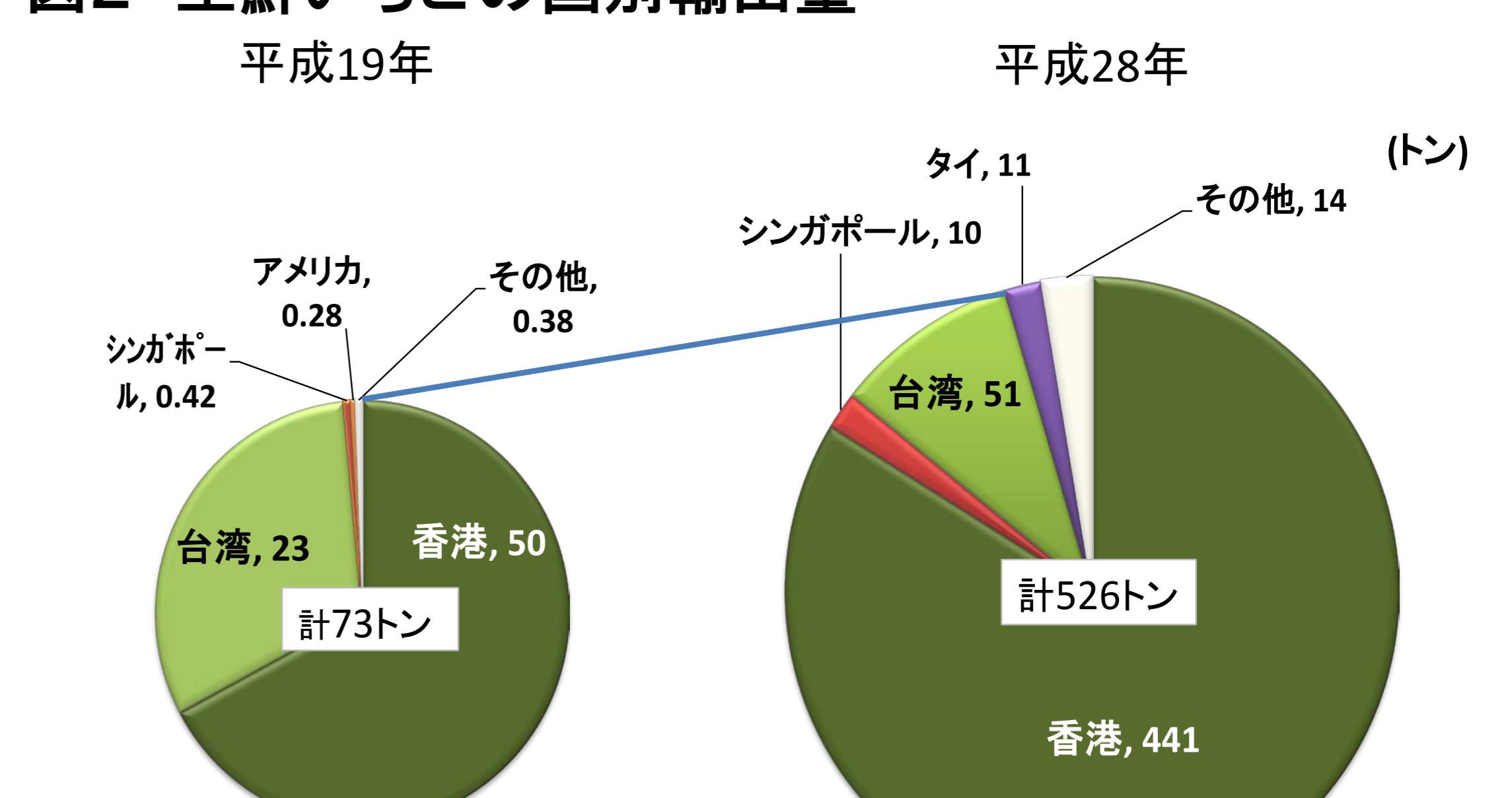


図3 世界の国別いちご生産量(平成25年)

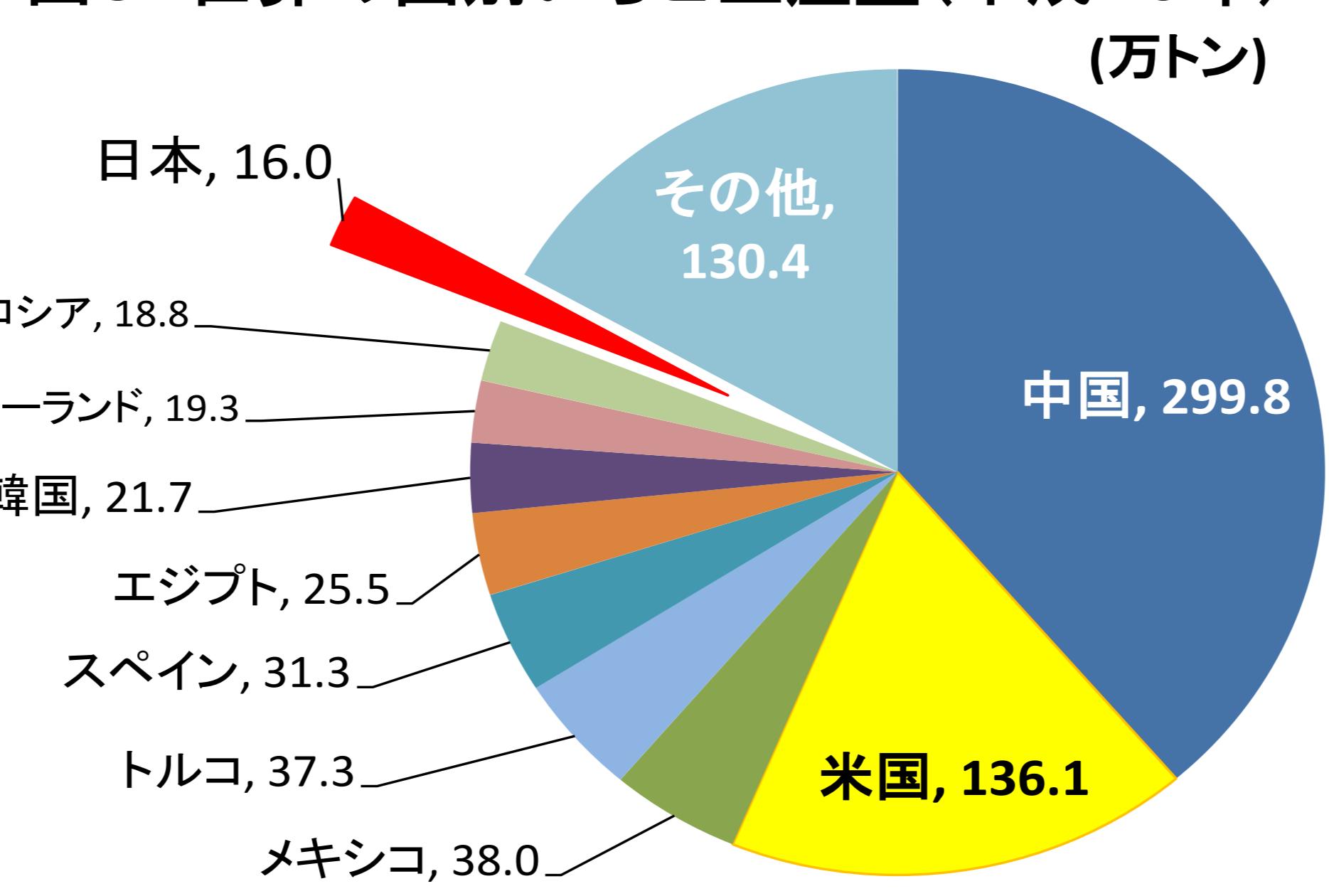
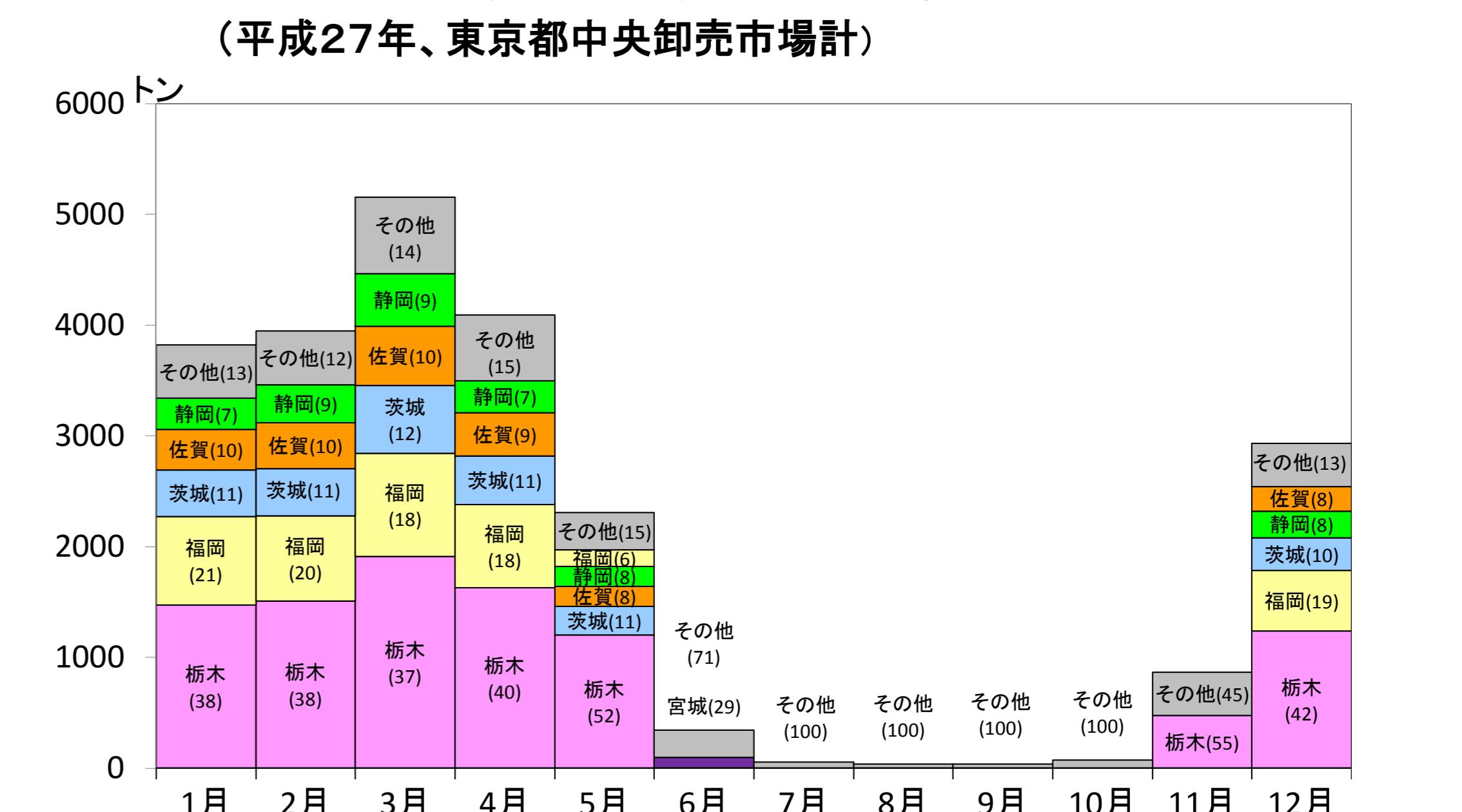


図4 いちごの主産地別月別入荷実績(平成27年、東京都中央卸売市場計)



資料：図1、図2 農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）、図3 栃木県農業試験場いちご研究所HPより機構作成（原資料：FAO 2013年（2016年5月現在）、図4 農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」）

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメールマガジンでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。